

2009年(平成21年)9月15日(火曜日)

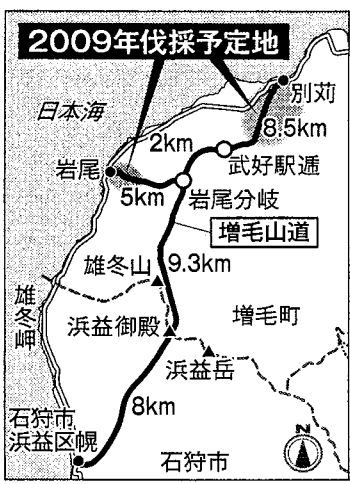
# 増毛山道「復元」へ

## 地元の有志の会 ササ伐採を開始

### 江戸時代末、幻の交易路

【増毛】かつて増毛と浜益を結ぶ交易路だった「増毛山道」(27・8キロ)の復元に向け、有志による伐採作業が始まった。当面、10月末までに増毛側の約5キロを切り開く。ササやぶに覆われ作業は容易ではないが、先人の足跡をたどると、10年以上前から温めてきた計画がようやく動き出した。全面開通には数年かかる見通し。(古田夏也)

## 開通には数年



活動の中心は、増毛と石狩の山岳会や、留萌支庁山の会のメンバーら19人で行く「増毛山道の会」(伊達)

活動の中心は、増毛東会長(古田夏也)。計画では増毛山道部分に加え、岩尾分岐から岩尾間の5キロにも道を付ける。今年地主から伐採



悲願の山道復元に向け、伐採作業を行うメンバーたち=12日午前、増毛町別荘

許可を得た、岩尾分岐に向けて、増毛町別荘から3・9キロ(標高差400メートル)、岩尾から約1キロ(同200メートル)の民有地部分が対象。ササを刈り取り、2メートル幅を確保する。12日に別荘の山道起点で、20人が集まって伐採開始式を行った。私費で増毛山道を開いた漁場請負人伊達林右衛門の末裔でもある伊達

達会長(75)札幌在住。「ようやくこの日を迎えられる、この上ない喜び」とあいさつ。1998年の会発足からの道のりを振り返った。12、13の2日間で別荘側の2キロに目印を付け、一部は刈り取り作業をした。

増毛山道は、南下政策をとるロシアの脅威に備え、江戸時代末期の1857年に造られた。留萌、増毛がニシンの景気に沸いた明治後期には呉服商人らが行き交う貴重な陸路だったが、駅通の廃止や国道231号の開通により、昭和20年代以降使われなくなった。